

資料 3

第3次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 リーディングプロジェクトの進捗状況について

1. 第3次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
2. リーディングプロジェクトの進捗状況
 - 1) 基本目標Ⅰ 若者に選ばれるまちづくり
 - 2) 基本目標Ⅱ 第2のふるさとづくり
 - 3) 基本目標Ⅲ 帰ってきたくなる学びのまちづくり
 - 4) 基本目標Ⅳ 自助・互助・共助・公助のまちづくり
3. 進捗状況総括

○計画の位置付け

第3次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第3次総合戦略」）は、第3次安芸高田市総合計画基本計画において、人口減少対策および地方創生の取組を推進するための重点プロジェクトとして位置付けられます。総合計画に掲げる将来像の実現に向け、より具体の行政施策を対象として取組を推進するとともに、国の補助支援制度も活用しながら実効性を高めていきます。また、重点プロジェクトの中でも先導的な役割を果たすものをリーディングプロジェクトとして位置付け、重点的に推進することとしています。

○計画期間と目標

計画期間は2026年度から2028年度までの3年間とします。目指す人口である「2045年 18,000人」の達成に向けて、4つの基本目標（Ⅰ 若者に選ばれるまちづくり／Ⅱ 第2のふるさとづくり／Ⅲ 帰ってきたくなる学びのまちづくり／Ⅳ 自助・互助・共助・公助のまちづくり）と、それらを先導する4つのリーディングプロジェクトを設定しています。人口シミュレーションの結果、目標達成には年間126人の社会増（若年層の転入促進および転出抑制）に加え、合計特殊出生率の段階的な向上が必要とされており、4つの基本目標を相互に連動させながら取組を推進していきます。

○本報告書について

本報告書は、第3次総合戦略に位置付けた各リーディングプロジェクトに関連する①2026年度の取り組み状況、②今後の方針について、庁内関係各課へのヒアリング結果を踏まえて取りまとめたものです。計画スタートに先立ち2026年度時点の進捗を整理することで、本格実施に向けた課題を早期に把握・解決し、今後3年間の施策効果を最大化していくことを目的としています。

・基本目標及びリーディングプロジェクトに係る具体的な取り組み事項は、以下のとおりです。

区分	基本目標	リーディングプロジェクト	具体取組
基本目標Ⅰ	若者に選ばれるまちづくり	若者が働くことができる・挑戦できる環境づくり	① チャレンジショップの立ち上げ ② サテライトオフィスの誘致 ③ 公共施設マネジメントの推進 ④ 大型商業施設の誘致 ⑤ 宿泊施設の誘致
基本目標Ⅱ	第2のふるさとづくり	道の駅等拠点施設を活用した関係人口相談窓口の整備	① 関係人口案内所の基本構想・基本計画の策定 ② PPP・PFIスキームを活用した関係人口案内所の運営 ③ 関係人口コーディネーターの育成 ④ お試しXの推進
基本目標Ⅲ	帰ってきたくなる学びのまちづくり	教育の魅力化事業	① 中学校統合計画の推進 ② 未来チャレンジ探究学習の充実 ③ 小学校・中学校及び中学校・高校の連携の強化 ④ 地域学校協働活動コーディネーターの育成 ⑤ 高校の魅力化事業の推進
基本目標Ⅳ	自助・互助・共助・公助のまちづくり	地域振興組織の新たな仕組みの構築	① 多世代参加型のワークショップによる地域振興組織のあり方の検討 ② 地域振興組織に係る指針の作成 ③ 各町における集落支援員の配置 ④ 地域振興組織の広報活動

リーディングプロジェクト**・若者が働くことができる・挑戦できる環境づくり****プロジェクトの方針**

「『子育てするなら安芸高田市』『働くなら安芸高田市』と市内外の人々が実感できるまちづくり」の実現に向けて、駅・拠点の周辺で若者にとって魅力的な雇用の受け皿を創出し、賑わいを生み出していきます。

具体取組（本節で報告する事項）

①	チャレンジショップの立ち上げ	空き家・空き店舗を活用したチャレンジショップを立ち上げ、若者の挑戦を促します。
②	サテライトオフィスの誘致	IT系等の中小企業の誘致を促進します。
③	公共施設マネジメントの推進	遊休公的不動産を活用し、民間企業の誘致を促進します。
④	大型商業施設の誘致	遊休地への大型商業施設の誘致を促進します。
⑤	宿泊施設の誘致	不足する宿泊施設の誘致を促進します。

① チャレンジショップの立ち上げ

2026年度の取り組み状況

- ・ チャレンジショップの立ち上げの進め方や方針を検討中。

今後の方針

【チャレンジショップの検討】

- ・ 空き店舗（市所有）を活用し、新規起業者が低コスト・期間限定で店舗運営を実践できるチャレンジショップの仕組みを検討する。
- ・ 新規起業者の経営が安定した段階で、チャレンジショップを卒業し、市内の別の場所で本格的に起業してもらう、「条件付き」の受入方式を前提とする。
- ・ 計画期間中の成果目標として、**チャレンジショップの候補地の選定、運営上のルールの策定、チャレンジショップの1号案件の創出を目指す。**

【アイデアソンの実施】

- ・ 昨年度より、地域及び事業者の課題解決に向け、中学生・高校生等と連携したアイデアソンを実施しており、この取組を継続的に実施する。
- ・ 計画期間中の成果目標として、**アイデアソンで創出された商品をふるさと納税の返礼品として登録し、新たな歳入の確保につなげていくことを目指す。**

② サテライトオフィスの誘致

2026年度取り組み状況

- ・ 昨年度に引き続き、企業誘致に向けた取組を実施中。

今後の方針

- ・ ターゲットを「本市の地域課題の解決に資する企業」とし、時代の変化に合わせた戦略的な企業誘致の取組を実施する。
- ・ 計画期間中の成果目標として、**1件のサテライトオフィスの誘致を目指す。**

③ 公共施設マネジメントの推進

2026年度取り組み状況

- ・ 2025年募集における民間提案制度を活用した民間活力の導入では、7件の提案を採択しており、現時点で事業化した5件を除いた2件について、民間事業者と事業化に向けた検討を進めている。

今後の方針

- ・ 民間事業者からの提案内容の事業化が完了した段階で、新たな民間提案の募集を開始する。
- ・ 計画期間中の成果目標として、**現時点で事業化されていない提案2件の事業化を目指す。**

④ 大型商業施設の誘致

2026年度の取り組み状況

- ・ 新規で大型商業施設の誘致を検討中。

今後の方針

- ・ 本市は大型商業施設が望む商圈規模を有していない、という民間企業の意見を確認済み。
- ・ 引き続き、大型商業施設の誘致を検討する。

⑤ 宿泊施設の誘致

2026年度の取り組み状況

- ・ 宿泊施設の誘致に向けて、検討段階にある。

今後の方針

- ・ 宿泊施設の誘致の確定に向け、引き続き調整を進める。

リーディングプロジェクト

・道の駅等拠点施設を活用した関係人口相談窓口の整備

プロジェクトの方針

「10,000人が1回訪れるまちではなく、100人が100回また訪れたくなるまちづくり」の実現に向けて、地域と人との関係を案内し、継続的なつながりや縁を生み出す新たな「場」を整備します。

具体取組（本節で報告する事項）

①	関係人口案内所の基本構想・基本計画の策定	コンセプト、ターゲット設定、ブランディング、空間・関わりしろの設計等を検討します。
②	PPP・PFIスキームを活用した関係人口案内所の運営	地元企業・人材と市外企業との連携による運営で収益化を目指します。
③	関係人口コーディネーターの育成	地域と関係人口の継続的な関わりをコーディネートする人材を育成します。
④	お試しXの推進	空き家等を活用し、子育て世代の地域体験・お試し暮らしを支援します。

- ① 関係人口案内所の基本構想・基本計画の策定
- ② PPP・PFIスキームを活用した関係人口案内所の運営
- ③ 関係人口コーディネーターの育成

2026年度の取り組み状況

- ・ 内閣府「民間資金等活用事業調査費補助事業（令和8年度・当初予算）」で道の駅三矢の里関係人口案内所・（仮称）安芸高田市都市公園の一体的整備とエリアマネジメント型の官民連携手法検討調査を申請し、採択。
- ・ 今年度、プロポーザル発注し、PPP/PFI導入可能性調査を実施予定。

今後の方針

- ・ 道の駅三矢の里関係人口案内所を中核とし、各支所を関係人口案内所支所と位置付け、市全域を対象としたエリアマネジメント型の官民連携による関係人口の創出・拡大、移住・定住促進に係る事業を推進する。
- ・ **2029年に関係人口案内所の窓口開設を見据え、計画期間中の取組目標として2026年度に道の駅三矢の里関係人口案内所・（仮称）安芸高田市都市公園の一体的整備に係る基本構想・基本計画の策定、2027年度以降に関係人口コーディネーターの配置・育成、運営事業者の選定を目指します。**

④ お試しXの推進

2026年度の取り組み状況

- ・ お試しXの制度構築に向け、先進自治体の取組事例について調査を実施するとともに、安芸高田市の地域特性を踏まえた検討を進める。

今後の方針

- ・ お試しXの受け皿整備（空き家の利活用）については、道の駅三矢の里関係人口案内所と連携していくことを想定しており、2026年度に策定する道の駅三矢の里関係人口案内所・（仮称）安芸高田市都市公園の一体的整備に係る基本構想・基本計画の中で、方針を示していく。
- ・ 計画期間中の成果目標として、**お試しXの1号案件の創出を目指す。**

リーディングプロジェクト

・教育の魅力化事業

プロジェクトの方針

「就職・進学等で一度市外に出ても、また帰ってきたくなるまちづくり」の実現に向けて、学生が能動的に地域に関わる仕組みを構築し、地域への愛着を高めていきます。

具体取組（本節で報告する事項）

①	中学校統合計画の推進	学校規模適正化推進計画に基づき、生徒にとって魅力的な教育環境を整備します。
②	未来チャレンジ探究学習の充実	小学校3年生から中学校3年生まで探究学習を進め、地域とつながる機会を創出します。
③	小学校・中学校及び中学校・高校の連携の強化	小中・中高の交流を促し、市で学び続けたいと思える機会を提供します。
④	地域学校協働活動コーディネーターの育成	地域と学校との橋渡し役として活動する地域人材を育成します。
⑤	高校の魅力化事業の推進	吉田高校・向原高校が提案する魅力化事業の推進を図ります。

① 中学校統合計画の推進

2026年度取り組み状況

- ・ 中学校統合の候補地の選定に係る検討を実施中。
- ・ 中学校統合後のビジョン策定等、ソフト面の計画についても並行して推進中。

今後の方針

- ・ 候補地の決定に向けて検討を進める。

② 未来チャレンジ探究学習の充実

2026年度取り組み状況

- ・ 2026年4月に、これまで策定した計画及び指針等を統合した「安芸高田市学校教育推進プラン」を策定し、未来チャレンジ探究学習の充実に位置付け、推進中。

今後の方針

- ・ 毎年1月に、各校の代表者(2名程度)による合同発表会を実施する。合同発表会は、テーマによっては市全体としての未来チャレンジ探究学習の取組内容を地域に公開する形式で開催する場合もある。
- ・ 計画期間中の成果目標として、**未来チャレンジ探究学習に取り組む児童・生徒の地域への愛着度の向上を目指す。**

③ 小学校・中学校及び中学校・高校の連携の強化

2026年度の取り組み状況

- ・ 【小中連携】教職員の研修について、小中学校で可能な限り同一内容で実施中。
- ・ 【小中連携】特別支援学級を中心に、乗入れによる授業を実施中（例:児童生徒同士の交流が中心）。
- ・ 【中高連携】中学生の探究学習を高校生が指導する取り組みを推進中。

今後の方針

- ・ これまでの取り組みを踏襲し、継続的に推進する。
- ・ 今後の学校統合を契機として、小学校間、中学校間の連携も検討する。

④ 地域学校協働活動コーディネーターの育成

2026年度の取り組み状況

- ・ 集落支援員が地域学校協働活動コーディネーターの役割を担う方針で調整。
- ・ 地域学校協働活動の実施に際して集落支援員がサポートする形とし、学校と地域が密着した活動が可能となる体制へ移行。

今後の方針

- ・ 集落支援員を、地域と小中学校をつなぐコーディネーターとして位置付け、配置を進める。
- ・ 学校運営協議会にも支所長・集落支援員を委嘱し、複数の地域関係者のつながりを新たに創出していく。

⑤ 高校の魅力化事業の推進

2026年度取り組み状況

- ・ 高校魅力化推進チャレンジをミッションとした地域おこし協力隊を広島県立吉田高等学校に1名、広島県立向原高等学校に1名、配置中。
- ・ 広島県立吉田高等学校及び広島県立向原高等学校共に、地域や外部専門人材と連携した課題探究授業のカリキュラムの開発・実践や市内外への積極的な広報活動を実施中。

今後の方針

- ・ **計画期間中の成果目標として、取組を継続し、高校の魅力を高め、安芸高田市内中学3年生の高校への志願率を高め、同時に生徒の地域への愛着度の向上を目指す。**
- ・ 広島県立向原高等学校については、広島県教育委員会より、2029年度から生徒募集を停止する方針が示されたが、詳細な説明を受けていないため、対応については詳細な説明を踏まえて検討する。

リーディングプロジェクト

・地域振興組織の新たな仕組みの構築

プロジェクトの方針

「多世代との交流が育まれ、年をとっても幸せに暮らせるまちづくり」の実現に向けて、若年層も参加したくなる地域振興組織の新たな仕組みを構築します。

具体取組（本節で報告する事項）

①	多世代参加型のワークショップによる地域振興組織のあり方の検討	若年層も含めた多様な世代と共に、今後の地域振興組織のあり方を検討します。
②	地域振興組織に係る指針の作成	ワークショップの結果を踏まえ、新たな仕組みを指針として取りまとめます。
③	各町における集落支援員の配置	各地域振興組織のニーズ・課題を把握し、解決に向かうための支援員を配置します。
④	地域振興組織の広報活動	地域振興組織への参加率を高めるために、広報活動を強化します。

① 多世代参加型のワークショップによる地域振興組織のあり方の検討

2026年度の取り組み状況

- ・ 広島県と連携し、地域振興組織毎に多世代参加型のワークショップを実施し、地域振興組織のあり方を検討中。

今後の方針

- ・ 先行して取り組む地域振興組織の事例を横展開していく。その際、各支所に配置する集落支援員がコーディネーターとして、各地域振興組織で実施する多世代参加型のワークショップを支援できるように、集落支援員の育成も行う。
- ・ 計画期間中の成果目標として、**全ての地域振興組織（32組織）において、多世代交流型のワークショップが実施され、若者の地域振興組織への参加率が高まることを目指す。**

② 地域振興組織に係る指針の作成

2026年度の取り組み状況

- ・ 地域振興組織に係る指針の作成方針を検討中。

今後の方針

- ・ 多世代参加型のワークショップによる地域振興組織のあり方の検討結果を踏まえて、地域振興組織のあるべき姿や行政としての支援の考え方等を指針として作成する。

③ 各町における集落支援員の配置

2026年度取り組み状況

- ・ 各支所における集落支援員を配置済み。

今後の方針

- ・ 計画期間中の成果目標として、各支所への集落支援員の相談機能を高めるとともに、地域振興組織の活動を支える体制の構築を目指す。

④ 地域振興組織の広報活動

2026年度取り組み状況

- ・ 地域振興組織の広報活動の方針を検討中。

今後の方針

- ・ 計画期間中の成果目標として、集落支援員と連携し、市民に対する地域振興組織の活動内容等の情報発信の仕組みを構築することを目指す。

基本目標Ⅰ 若者に選ばれるまちづくり

公共施設マネジメントでは、民間提案制度により採択7件のうち5件が事業化に至り、遊休不動産を活用した民間活力の導入が進んでいる。チャレンジショップは空き店舗を活用した仕組みの検討を、サテライトオフィスは地域課題の解決に資する企業を対象とした誘致を、宿泊施設は誘致確定に向けた調整をそれぞれ進めていく。大型商業施設については商圈規模に関する民間意見を確認しており、引き続き誘致を検討していく。

基本目標Ⅱ 第2のふるさとづくり

内閣府の補助事業に採択され、道の駅三矢の里関係人口案内所と（仮称）都市公園の一体整備を、エリアマネジメント型の官民連携で進める枠組みを確保した。今年度はプロポーザルによりPPP/PFI導入可能性調査を実施していく。①基本構想・基本計画の策定、②PPP・PFIスキームによる運営、③関係人口コーディネーターの育成、④おとしXの推進は、いずれも相互に関連することから、2026年度に策定する基本構想・基本計画の中で、それぞれの方針を一体的に示していく。

基本目標Ⅲ 帰ってきたくなる学びのまちづくり

2026年4月に「安芸高田市学校教育推進プラン」を策定し、未来チャレンジ探究学習の充実を位置付けた。今後、小中・中高連携の取組を継続するとともに、集落支援員を地域と学校をつなぐコーディネーターとして位置付け、配置を進めていく。高校では地域おこし協力隊とともに高校の魅力化を引き続き進めていく。中学校統合は候補地の決定に向けて検討を進め、また、向原高校の募集停止方針への対応も併せて検討していく。

基本目標Ⅳ 地自助・互助・共助・公助のまちづくり

広島県と連携し、地域振興組織ごとに多世代参加型のワークショップを実施するとともに、各支所への集落支援員の配置を進めてきた。今後は、先行して取り組む組織の事例を全32組織へ横展開するとともに、ワークショップの検討結果を踏まえた指針の作成、集落支援員と連携した広報の仕組みづくりを進めていく。あわせて、ワークショップを支援するコーディネーターとしての集落支援員の育成も進めていく。

総括

4つのリーディングプロジェクトについては、「具体の取組を推進中」「具体の取組を立ち上げ中」「具体の取組の進め方を検討中」の段階が混在しています。今後は、立ち上げ中の取組を着実に推進するとともに、検討中の取組については関係機関との協議等を通じて立ち上げを進め、4つのリーディングプロジェクトを一体的に推進することで、4つの基本目標の達成と目標人口の実現を目指します。